



上方こももちゃん(堀内・5歳)



野田口礼莉ちゃん(旭日区・2歳)



谷地真鈴さん(力持・6歳)

◎4月号の答え:①う(チヨウ)、く(サッカーボール)、け(バケツ)  
◎応募総数:12通で12人の方が正解でした。抽選の結果、

次の5人に図書カードをお送りします。おめでとうござい  
ます。  
◎当選者:①上方さくらさん(堀内・8歳)②仲村妃織さ

ん(京都府京都市・7歳)③米田昭子さん(白井・64歳)④齋藤嘉重君(宮古市・5歳)⑤野田口裕君(青森県八戸市・8歳)

三陸縦貫鉄道の具体的な構想は大正四、五年から始まり大正十二年四月予定線として久慈線はじめ三陸海岸を貫通する各線が予定線に入り、昭和五年八戸線として八戸―久慈間が開通した。

昭和三年、鉄道省は昭和四年度以降の新線建設予算を発表した。この中に久慈―普代間を久慈線として昭和五年度着工、十二年度完成の計画であった。計画通り進めばわが普代村民は昭和十二年には宿願の汽車の姿を見ることができたのである。

昭和十二年には普代に到達する予定だった久慈線は昭和四年、内閣交代による政変で削除され幻の予算に終わった。朝日新聞社盛岡支局編集の「リアス号のベルが鳴る」によると昭和四年十一月二十一日付岩手版は「花釜鉄道の命危うく助かる。本県下で削

除されたのは普代、荒屋、生橋三線」と大見出しで報道したという。

こうしてわが普代までの鉄道建設は中止され、その後わが国は戦争に突入、敗戦となり、鉄道建設は夢と消えたのである。

昭和二十二年、当時三十八歳の和村幸得氏が公選村長と

### 郷土を探る―その二

## 悲願の鉄道

して誕生した。その後昭和六十二年まで十期四十年の長きにわたり村政を担当することになる。同氏著書「貧乏との戦い四十年」によると当選一期目に沿岸町村長が久慈に集まり三陸縦貫鉄道を通そうとの話がまとまった。

普代村史によると昭和三十六年久慈線は調査線に指定、

三十七年には工事線に編入された。昭和四十年十一月、日本鉄道建設公団は久慈―普代間の路盤工事に着工、十年の歳月を要しついに待望の鉄道が完成、昭和五十年七月二十日、久慈線久慈―普代間の開業式が行われた。

普代村史には「ここに半世紀の悲願が実現し普代村の新

鉄再建法により三陸縦貫鉄道の久慈線、宮古線、盛線の三線は廃止の運命となった。

このころ廃止か、バスによる代替輸送か第三セクター方式かの三つの方法があったが、三陸縦貫鉄道を全通させるにはあくまで国鉄経営を求めめるか第三セクター方式か模索と混乱の時が流れた。

昭和五十六年、三陸縦貫鉄道は第三セクター「三陸鉄道株式会社」として運営に当たることになった。出資団体は

岩手県と二十八関係市町村であり、代表取締役社長中村直岩手県知事、取締役に沿岸の市町村長が就任した。第三セクター方式の私鉄としては全国第一号となった。

これにより昭和五十七年末開通区間の起工式も行われ、田老会場では住民一人ひとりが「この鉄道を守り育てよう」との気持ちを込めて署名した

小石八万個が線路に敷かれたという。

このような紆余曲折を経て昭和五十九年四月、「三陸鉄道北リアス線」として久慈―宮古間が開業し、普代―宮古間は一時間弱で結ばれることになり、ここに下閉伊北部沿岸住民の永年の夢は実現した。ここに至るまでの関係者の多大な努力を忘れてはならない。

(普代村郷土史六二―六二五頁を要約して抜粋)

三陸沿岸住民の悲願だった普及、人口減少、さらには観光客の減少などにより今、三陸鉄道は苦しい経営を強いられています。これまでわたしたちが多くの恩恵を受けたこの悲願の鉄道に、今、感謝の意味を込め、まずは年に一回今より多く乗車してみたいかがでしょうか。